

令和 8 年度 市政懇談会 ゆかり市長とまちかどトーク 議事録要旨

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和 8 年 7 月 23 日(木) 19 時から 20 時 18 分まで

会 場 諏訪市役所 大会議室

参加人数 会場:44 人／配信:63 人(最大) 合計107名

意見交換

テーマ「～基本計画をもとに～ 諏訪湖イベントひろばに〇〇があったらうれしい!!」

【発言者1(中学生)】

道の駅について提案したい。観光客や地元の方に行ったアンケート結果で、諏訪市にあったらいいと思う施設で最も多かった回答が、「道の駅」やカフェなど約25%、他にレジャー施設、日帰り温泉。「道の駅」にあると良いもので最も多かった回答が、地元の野菜・特産物などで約59%。観光客には諏訪市の特産物を販売する「道の駅」が求められていることがわかった。

「道の駅」があると人が集まり、諏訪市の産業やものづくりなど、野菜や特産物、観光地などについて紹介できる。諏訪市の産業、農業、観光の架け橋になる。芝生の広場でバーベキューができるようにし、大人も子どもも楽しめる施設を作れば、子どもが遊ぶのにも安全な場所となり、環境への配慮や、子どもの運動能力の上昇などの効果も期待できる。

諏訪市の「ものづくり」の力を集結して、諏訪市の魅力を発信するモニュメントや観光地をまとめたマップなどを作成し、地域の特産物や野菜を販売。すべてにQRコードを設置し、企業、生産者の情報や特産物への思い、観光名所の行き方やその場所を紹介し、諏訪市の産業の魅力、名産品や風土、歴史、観光地について知ってもらえるようにすれば、産業、農業、観光の架け橋になれるような「道の駅」になる。

さらに、「道の駅」は「防災拠点」としての機能を持たせることもできる。国土交通省は「道の駅」に対して、広域的な防災拠点として役割を果たすための重点的な支援を実施し、「道の駅」の防災拠点化に力を入れている。実際に能登半島地震の際には、道の駅が広域防災拠点としての機能を果たした。また、「道の駅」を作ることで、人が集まり、企業が動くことで経済が発展、経済的に余裕ができる。環境についても配慮でき、よい環境が整うことで、さらに人が集まり、観光、産業、環境に対して良いサイクルが生まれる。

さらにイベントホールがあれば、各種イベントや災害時の避難所にも利用でき、イベント広場や災害拠点としての機能も期待できる。諏訪湖イベントひろばを、いろいろな利点のある「道の駅」として活用してみてはどうか。

【市長】

とてもいい発表で大いに参考にさせていただきたい。全体を包括する言葉として「道の駅」という名前を使っているが、イメージするものが人により違うのではないか。諏訪湖イベントひろば独自のネーミングを考えると、よりオリジナリティある豊かなものになっていくのではないか。

【発言者2】

山梨に防災道の駅がある。防災拠点としてヘリポート、観光客用に一時避難所となる建物がある。普段は教育訓練センターとして使用し、災害時には避難所になる他、防災備蓄倉庫、資材置き場が備わっている。

国交省の関係で、防災道の駅というのは全国で79か所。県内でも「小坂田公園」と、上田の「道と川の駅」の2か所が指定されている。諏訪にも似たようなものができれば。周りにはヨットハーバー、赤十字病院、文化センター等もあり、文化センターは避難所としての役目も果たせる。防災の拠点となるのであれば、一帯のヨットハーバー、日赤等含めて連携が取れるような関係ができれば。災害の時は道路等が使えなくなるので、ヨットハーバーが、岡谷・下諏訪方面の物資や傷病者の搬送をできればいい。

また、防災道の駅は72時間自立確保できるように自家発電装置、給水設備などが備えられていた。当然、防災拠点、自動車駐車場がある。普段は一般の駐車場に開放し、災害の時には支援者等の駐車場が拠点になる。また、キャンピングカーが泊まれるような駐車場になっていれば、災害の時も同じように使える。駐車場の中にマンホールトイレを設置していれば、いざという時には仮設トイレとして、すぐ使用可能。花火大会の時にも利用しては。防災の拠点として、一帯を含めて何か面白いことができればいい。

【副市長】

「防災」の拠点として、「道の駅」とも関連してのご提案だった。ご意見として承る。

【発言者3】

確認のために質問したい。令和3年9月に諏訪湖イベントひろばの基本計画が策定になり、今日が令和8年7月23日。5年経っているが、その間、活用に関しての進捗があったのか。ホームページの方も見ていたが、基本計画策定と載っているだけで、その後何も載っていないので関心が薄れてきた。5年空いてしまったことで、自分自身も市民の関心も薄くなってしまっているのではないか。この5年間の間、活用に関しての進捗があったのか。実際の活用について、何か進展があったのかどうかお聞きしたい。

【市長】

令和2年からコロナがあり、財務計画、こうした集会等もすべて中止になったという時代が3年続いた。その間、地歴調査や建屋を解体するための準備を進めながら、同時並行で文化センターや駅の西口の広場のことを進め、いろんな事業を手がけていた。この間、諏訪湖イベントひろばについては、具体的な話に移行してこなかったが、これから建屋を解体し、このタイミングで復活をしている、それが今日なんだと捉えていただければと思う。

【発言者 4(専門学校生)】

諏訪地域はものづくりが盛んなので、ばねや精密部品やガラスなどを使ったものづくり体験や、みそや寒天スイーツなどを作れる施設があると、子どもから大人まで、市民も観光客も楽しめるような場所になるのでは。また、諏訪湖周辺にはサイクリングコース、ランニングコースなどの整備も整っているので、宿泊研修施設などもあるとよい。こういった施設は災害が起きた時の、避難所などの拠点にもなる。諏訪ならではの技術や文化を体験できる施設にすることで、地域の魅力発信や観光を盛んにすることにも繋がる。

【市長】

ありがとうございます。使い方によって、こんなことが可能になるという夢を聞かせていただいた。大いに参考にさせていただきます。

【発言者5】

最初に話した生徒の意見に感動した。確かに「道の駅」は国交省の方で非常用発電機などの設置を全国で進めている。私の考えは、旧東バル跡地は、防災センターを拠点に防災の拠点になればいい、と思っていた。大災害のときに自衛隊とかが来る拠点として、あの場所が位置的にいい。

「防災」以外はあまり興味がないが、「道の駅」という発想は新鮮ないい案だった。学生のいい発想や意見を行政に取り込む仕組みみたいなものに、市はぜひ取り組んでもらいたい。どうしても基本計画は、市民が知らない間にできているが、ある程度基本計画ができたところで、ぜひ学生さんたちの意見を取り入れるっていうのもお願いしたい。

この基本計画において、根本となる対象の人について。諏訪市も人口減少が進み、全国的にも人口減少しており、結局は人の取り合い。人口減少している中で、今回の基本計画が、市民が主体の基本計画なのか、観光に来られるお金を落としてくれる人が主体なのか、両方なのか。基本計画はこれでいいと思うが、根本的な計画を立てるにあたって、どうということが基本ベースで考えられているのかを教えてください。

【市長】

人と場所は大事な要素。対象は市民だとか観光客だとかに絞ることはなく、そこに集まって来られる方たちが、その場所で楽しんだり、豊かさを感じていただけるような場所、魅力のある場所にすることが大事。そこで交流が起こっていくと、全体を包括できるようなものになると考えている。

【副市長】

YouTubeを今ご覧いただいている方が54人いる。途中でちょっと声が聞こえなくなり、音声繋がらなくなった時間があり申し訳ない。今は聞こえていると思うので、YouTubeからもコメントをお待ちしている。

【発言者 6・7・8(中学生)】

私たちは昨年度、立石公園を中心に、諏訪の魅力を高めていくためにはどうすればよいか考え、観光に訪れる視点と地域の人々の視点の両方を考えていくことが大切だと学んだ。そこで、この諏訪湖イベントひろばも、地元の人たちが気軽に利用し集まって、読書や勉強などができるスペースがあってほしい。

学習スペースなら、駅前のすわっチャオや図書館もあるが、諏訪湖の景色を見ながら勉強することは、諏訪の魅力。公園スペースも含め、お金をかけずに過ごせる場所になってほしい。観光に来る人たちの視点としては、「君の名は。」の舞台とも言われ、映画の聖地として注目されている諏訪湖を背景に、SUWA の文字のモニュメントや、大きなブランコ、おしゃれなベンチなどを設置。思わずSNSに投稿したくなるようなフォトスポットがあれば、中高生や若い観光客がSNSで拡散し、全国に諏訪市の魅力をさらにアピールできる。

また、芝生を敷いてみてはどうか。子どもが安心して遊ぶことができ、転んでも大きなけがを防ぐことができる。今、立石公園などは、観光客の方が増え、せっかくの遊具や公園があるのに、地元の私たちが行く機会が少なくなっている。諏訪湖イベントひろばは、花火大会や諏訪湖マラソンなどの大きなイベントの時はもち

ろん、イベントがない普通の日でも、地域の方や多くの観光客が集まり、みんなが繋がれるような場所であってほしい。

最後に、今年度、私たちは立石公園から諏訪ヘテーマを広げて、自分たちの持つ好きや得意、能力を最大限に生かして、諏訪の課題について考え、魅力を発信していくことに取り組んでいる。今日のまちかどトークでお聞きしたことを、学校での学習にも生かしていきたい。

【市長】

昨年は出張トークで素晴らしい発表をいただいたので、早速、その意見を反映しトイレの改修や、予算をつけて駐車場のことに取り組んでいる。今日もみんなに来てくださり、イベントひろばも一緒に考えてくださることを心強く思っている。夢をしっかりといただき、大いに参考にしたい。

【発言者9】

若い人たちに、考える力・生きる力を持ってほしいと思って活動している。製造業が本業。製造業の言葉の中で、「次工程はお客様」という言葉がある。自分の工程の次の人たちはお客様なので、品質良く渡していくことが大事。自分の責任として、次の人たちのために品質がいいものを渡すことを心がけている。

私たちの世代は、中高生や、未来を担っていく人たちのために、品質がいいもの、資源を残していかなきゃいけない。古くてもどういふものでも、磨きあげて渡したい。諏訪市は守りたいものがたくさんある。諏訪市の出生率は非常に低く、1年間に生まれるのが今270人。そのうち、学業や就職で外に出てしまう子たちがいる。270人のうち150人とかなった場合、10年間の子どもを集めても1,500人しかいない。そういう人たちで町を作っていかなきゃいけないときに、どうしても残したいものであっても、取捨選択が必要になってくる。

そこはもう致し方ないことで、捨てる勇気というのも出てくる。大規模な選択と集中が、固定資産にも迫られるであろうと思っている。住む人たちが少なくなればなるほど、諏訪市の税収は主たる財源である固定資産税が著しく減ってくる。限られた財源の中で、どういった事業をするかとなると、これだけ広くて魅力のある場所は、少なくとも、自分たちで稼いでその費用を賄えるだけの場所にしないと、おそらく子どもたちにとって非常にお荷物になる。

いろいろな機能があっていいと思うが、少なくともマネタイズできる機能は必要。「観光」や、お話のあった「道の駅」とか、そういった「外貨を稼げる場所」としての機能というのが重要になる。何を作るにしても、強みを生かすということがとても大事。あの場所の強みは、諏訪湖や美しい景色、借景が一つある。それから広大な場所であって、どんな使い方でもできる。いろんな表情を生み出すことができるのではないかと考えているので、いろいろな機能を盛り込んだ場所にしていけるのは私も賛成。

あと一つ、とても今気にしているのが健康寿命。私たちの世代は、体力があっても動けるが、これは小中学校の時に本当にしっかり運動したから。今の子どもたちは部活がどんどん減ってる中で、運動する子、運動を選ぶ子がどんどん減ってきている。部活がなくなるというのは、親が運動する場所に送れる送れないで、随分格差が出てきてしまう。格差が出てくることに対して、いい場所でスポーツができるっていうのは、一つ親にしてみると、送迎の意味で、とても助かる。何年たってもみんなが集まり、少しでも稼げる場所であってほしい。

【副市長】

多岐にわたるご提言をいただいた。選択と集中、磨き上げる、捨てる勇気といったキーワードが出てきた。

【市長】

大事な視点をいただいたので参考にしたい。

【副市長】

YouTubeをご覧の方から一つご意見をいただいたのでご紹介する。

【YouTube コメント1】

「道の駅に大賛成。第1に湖周に道の駅がない。第2に地元民も観光客も利用できる。第3に広場をキャンピングカーや防災用テントスペースに、有効活用できる。」

こういった理由から、道の駅という提案に賛成のコメントをいただいた。

【発言者10(専門学校生)】

私はイベントひろばに、飲食店学習スペースのある施設があればいいと考えている。現在、駅前にすわっチャオがあり、学校帰りに学習スペースをよく活用しているが、時々人が多く、勉強スペースが確保できない。勉強できるスペース、また勉強の息抜きとなれるような施設があればいい。また隣に諏訪赤十字病院があり、私たちは実習でよく来ているが、帰りに実習で得た学びや、仲間とグループワークができる場所があれば、よりよい学習が行える。広いスペースがあるので災害時にも活用でき、イベントを行えるような場所があれば、たくさんの方々と交流できる場所となり、諏訪市の魅力がたくさんの方々に伝わる。また、私たち学生が主体となって、健康が促進されるイベントを開催し、地域に貢献したいと考えている。

【副市長】

赤十字の看護学生の生徒さんからご意見をいただいた。受け止めさせていただく。

【発言者 11】

イベントスペースが3,000㎡を上限と書いてあったので、気になって調べてみた。例えば幕張メッセは、6,750㎡のホールが8つある。東京ビッグサイトだと、8,300から8,600㎡のが幾つかある。随分大きいと思ったが、東バル跡地はどうか調べたところ、AIが嘘ついてるかもしれないが10,000㎡と書いてあった。

もともとの幕張メッセだとか東京ビッグサイトの一つの部屋よりも、大きなものがあったんだと知ってびっくりした。それをみんなが有効活用していた。それを思うと、その3分の1のものが上限だ、というふうに言われると、すごい使い勝手の悪いホールができる。大きいことはいいことで、めちゃくちゃ大きい、もともとの大きさと同じ1万㎡のものがあれば、何でも使えるということになる。

例えば、先ほどから「防災」のことが出ているが、「防災」と考えても、仮設住宅を建てる必要はなくて、その中に全部、仕切りすれば町ができるくらいの大きさ。そこを縮小するのではなくて、あの場所でみんなが一番便利だなと思って使っていたのは、「あの大きな建屋ののらんとした空間を何にでも使える」ことだったと思う。そこは大事にして、もともとのサイズを残してほしいというのが一つの意見。

また、今、同時で進んでいる文化センターの改修や駅の西口の問題と、ぜひリンクをして考えていただきたい。それぞれの部署で考えて作っていくと、気がついたら同じようなものが隣接したところにできてるようなことになってしまうのではないかと心配している。

例えば、この紙の中に、飲食物販スペースで、カフェ・レストランとあるが、カフェ・レストラン作るのなら、東バル跡地に作るよりも、文化センターの例えばカルチャーホーム諏訪とか、公民館が退いた後に作った方が、例えば文化センターを使う人が、そこでお茶や食事に使えていいのではと思う。

例えば、「駐車場」ってあるが、「駐車場」は今、スワ・マチ・ミライの関係で、ウォークブルゾーンといって、歩いて楽しめるまちのことをやっている。その周りに、フリンジパーキングっていう大きな駐車場がいくつか必要だろうという時、一番大きな駐車場が東バル跡地の駐車場になるのではないか。そうすると、その場所に停まる車のことだけでなく、「町全体のことを考えた駐車場」みたいな発想で考えてもらえるといい。

そういうふうに考えていくと、文化センターのことはこの部署で、東バル跡地のことはこの部署で、駅のことはこの部署で、ではなくて、それを統括する上で、全体を采配できる存在が必要。市長や副市長がトップの庁内横断的な組織で、同時進行で進んでるものが整合性のあるものになるように、ぜひ作っていただきたい。

【市長】

東バルの建屋が10,000㎡とのお話。建屋を長く利活用してきたが、築後60～70数年経って危険だということで閉鎖をし解体に向かっている。あの工場は、ものすごい売り上げを上げた。その時のオーナー社長は、当時の日本橋三越の筆頭株主にもなっていた。それだけの収益を上げた工場だったから、あれだけの大きなものが維持できていた。

行政がイベントホールを目的として10,000㎡のものを作り、1年間に何回使われ、それを維持するのに毎年どのくらい経費がかかるか。我々諏訪市4万6600人のこの自治体で維持していくのは、10,000㎡のものは難しく、それはさんざん議論した。この基本計画を立てる時に、いろんなところを調査もした。

ビックサイトをはじめ東京のウォーターフロントに、多くの人やイベントを集めるメッセ産業という言葉がある。ドイツのデュッセルドルフやハノーバーなど、それを目的として町を作っているところもある。

それと比較すると、やはり我々のこの自治体として、どれだけの規模のものがコントロールできるかと考えた結果が3,000㎡。建屋とすればこれが上限だということを、基本計画には書いた。しかし、工業メッセのようなイベントをやるとき、その建物の中だけでやるわけではない。ユーティリティー的に、7ヘクタールの土地があるので、イベントの時には、何かポールを立てたり拡張をしてスペースを融通できるというようなことはイメージとしてあるかもしれない。

建物を作ったらその建物だけをイメージするのではなく、ひろば全体をどのように使って活用されるかということはある。今の基本計画では、ここまで来るとということで聞き取ってほしい。そしてまた、こうしたらマネージができるっていうようなアイデアや案があれば、教えていただけたらありがたい。

そして、もう一つ、整合性を持ってという点。立地適正化計画という、諏訪市全体を網羅して、どのようにコンパクトシティ化していくかっていう計画を令和元年頃に作った。それに従って今そうした計画を、同時進行で進めているという現状にある。企画政策課や私のところなどで、事業同士の整合性を持たせ、関連性を持って作っていかれたらと思う。お気づきことがあればアドバイスもいただきたい。

【副市長】

YouTubeのチャットの中からご紹介する。

【YouTube コメント2】

「ランニングコスト、維持管理費。開発をした後、やがて必ずやってくる大規模修繕までを含めた、マネタイズができるべきである」

と、いかに稼ぐかが大切だというご意見をいただいた。

【発言者12】

この敷地はずっと興味を持っていて、サウンディング調査でも出させていただいた経緯があり、かなり調べてきている。岩手県の紫波町にあるオガールという、紫波駅前の10ヘクタールほどの再開発の場所がすごく参考になるのではないかなと思っている。PFIとかを使って、公民連携で第3セクターみたいな会社を一つ作り、行政もしっかりとリスクを取り、民間のノウハウとか知見を生かしながら、その紫波町でしかできないコンテンツをしっかりと作っていくことで、自立的な経営を果たしながら、広大な土地の再活用をした経緯がある。

具体的には、国際試合対応のバレーボールコートとホテルを併設することで、世界中からバレーボール選手がやってきて練習したり、もちろん日本中からいろんな人が訪れるようになっている。

あとエコタウンっていうものを行政の土地に、住宅街をつくって、高気密高断熱の住宅しか建てちゃいけない分譲地を作った。その住宅を建てられるのは、紫波町内の工務店だけ。で、その工務店向けのセミナーを開いて、工務店のスキルアップを促す。で、紫波町産材を使わないといけない、みたいないろんな制約があるが、そうすることでハウスメーカーよりも良いおうちをつくれる工務店が紫波町にものすごく増え、隣の盛岡市からも注文が殺到するような町になっている。

そうすると、地場の産業が栄えていって、市の税収も増える。で、市民の人たちは健康に長生きすることができる、医療費も減るみたいな感じの流れができていくというふうに思う。包括的に、市が抱える課題や、いろんな側面、観光もいいと思うが、まずは人口を増やしていくことや若者支援をすることで、観光で一見さんだけを対応するよりは、ちゃんと住んでもらって日々の生活の中で町の中にお金を落としてもらう、ということが市内の産業を支えることに繋がると思う。

そうなってくると、やっぱり若者たちがしっかりと移住したくなるような魅力的なまちづくりが大事になってくる。町を面でまちづくりするってのはとても大変だと思うので、まずこの7ヘクタールという場所を実験的に活用することで、諏訪市が目指していく、これからの未来を果たしていくための自立経営ができるような施設としてやっていけるように、例えば会社を作ったりとか、専門家をしっかりと立てたりしながら、ビジョンを広くやっていければいいと思う。

今、コンテンツが5つ出ているが、これを「横串で刺せるような尖ったコンセプト」というのはまだないように見受けられる。ここはしっかり「諏訪のこの土地じゃないとつukれない場所」で、それが全国からきちんと注目され、人が訪れたいくなるというふうに、それが市民の生活を支えて、産業を支えて、移住に繋がって、自分たちの暮らしとか文化が楽しくなっていくような場所をぜひ作っていただきたい。

【副市長】

その町の中でお金が回っていくという仕組みについて、ご示唆をいただいた。

【市長】

ありがとうございます。全国各地でいろんな活動をされ、情報量も多い。参考に、紫波町を研究対象にしてみたい。5つのコンテンツを横串で刺すコンセプトがまだ見えてないという話について、これが、さっき中学生の方が、「道の駅」っていう表現はされたけど、何か別の表現というか名前がないかって言ったところに結びつく。また一緒に考えてください。

【副市長】

YouTubeのチャットの欄から少し紹介する。先ほどのご意見に、賛成の意見が1件届いている。

【YouTube コメント3】

「やはり3000㎡では、イベントスペースが狭過ぎる。旧東バルは1万㎡あったからイベントスペースとして成り立っていたが、3000㎡では中途半端だ。」

というご意見も YouTube 上でもいただいたのでご紹介する。

【発言者 13(専門学校生)】

諏訪赤十字看護専門学校の学生になってから諏訪を訪れるようになり、地域実習を通して、下諏訪町に新設されるユースセンターや、茅野にある CHUKO らんどチノチノなどの、その若者が集まる場所について学んだ。そこは中高大学生が集まって共に関われる場で、地域での新たなコミュニティや居場所づくりに繋がるのでとてもすてきだなと感じた。諏訪湖イベントひろばでも、そのような地域の若者が、一緒に遊んだりしゃべったり、勉強したり休んだと交流できる場があれば、新たなコミュニティが生まれて、年の近い同士でお互いに相談事などもできて、地域に顔見知りや友達が増えるのでいいと感じた。

また、地域に顔見知りが増えたりすることで、災害時などにも、共に助け合う共助にも繋がると思ったので、諏訪湖イベント広場にもそのようなユースセンターのような場があれば良いと感じた。

【副市長】

ありがとうございます。貴重なご意見として受けとめる。

【発言者14(中学生)】

学校で部活動として卓球などのスポーツをしているが、大会に行く時に、諏訪市外、岡谷などの体育館、松本や茅野などの大会をすることが多く、諏訪市内でやることがあまりない。今、皆様が話していた通りに、イベントスペースをメッセやスポーツや防災拠点など、多目的に使えるようなところがほしい。

多目的に使えるようになると、展示会やメッセ、スポーツなどの大会で来てもらうことで、多くの人に、イベントひろばや諏訪市のことを知ってもらうことに繋がる。スポーツや多目的に使ってもらうことで、さらにこのスペースの需要が大きくなり、使ってもらえるが増えるのではないかな。

【副市長】

ありがとうございます。参考にさせていただく。

それでは YouTube の方から、ご意見を一つご紹介する。

【YouTube コメント4】

「理想空想を追わずに、4万強の人口の身の丈に合った施設を第1に考えていくべきだ。」
というご意見を、頂戴をしているので、紹介する。

【市長】

皆さん本当に熱心に、この「ゆかり市長のまちかどトーク」にご参加いただき、ご発言をいただきありがとうございました。どのご意見もどのアイデアも、本当に今後7ヘクタールの中にどんなものがレイアウトされて、どこでどんな機能が果たされるかということ、夢を、みんなで一緒に描いていく中で、皆さんの希望が叶っていけるといいなと思う。

議論を積み上げていく中では、取捨選択をする場面があるかもしれない。それでも、こうしてみんなで胸襟を開いて意見を述べ合うということは、一つ一つ段階を上がっていく中で、とても大切なことだと思う。

大変暑い日だったが、こうして多くの皆さんにいろんな言葉をいただいたことが、これからの事業の進捗のベースになっていく。これから先、知恵を絞ったり、アイデアを出したり、必要なことがたくさんあると思うが、今後もしっかりと関心を寄せていただき、気づいたことがあったら、遠慮なく私たちに伝えていただけたらと思っている。本当に今日は長い時間ありがとうございました。

以上